

## 【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 22-5

補助事業名 平成22年度 地域産業技術の振興等 補助事業

補助事業者名 財団法人 中部科学技術センター

### 1 補助事業の概要

#### (1) 事業の目的

機械工業を中心とした中部地域のものづくり産業を更に発展させるためには、中小・中堅企業の技術開発・新製品開発等の活動を加速化させる必要がある。

新産業・新事業の創出には、既存技術の高度化、活性化、他分野からの技術導入および大学・研究機関等の保有する有望な技術シーズを円滑に産業界へ移転するシステムなど、中小・中堅企業に軸足を置いた支援が中部地域の発展に貢献するものと考えられる。このため、中堅・中小企業が抱える研究課題を、産学官による共同研究によってブレークスルーすることによりイノベーションの創出を図り、その結果地域の新産業・新事業が創出されるステップアップ型の事業活動を展開した。

#### (2) 実施内容

##### ① 「イノベーション推進研究会」を中核とした新事業・新産業創出支援事業

(<http://www.cstc.or.jp/jka.html>)

##### ア. 産学官連携共同研究形成プロモーターによる企業ニーズ発掘活動

中部地域の大学・高専・国公設研究機関の技術シーズと企業ニーズをマッチングさせ、産学官共同の研究開発を数多く形成することを目指して、プロモーターによる共同研究プロモート活動を実施した。

- a. 有用技術シーズの発掘収集：大学・高専、試験研究機関及び大学の先生への個別訪問による技術シーズの発掘・収集（訪問件数10件）
- b. シーズ・ニーズマッチング活動：シーズ紹介と同時に企業ニーズの収集に努め、大学等にフィードバックを実施。（企業訪問件数123社、企業ニーズへの対応23件）
- c. イノベーション推進研究会等への支援活動：産学官連携による事業の早期育成のため上記研究会、公募提案型研究開発事業等への提案支援活動を実施。（8件）

##### イ. イノベーション推進研究会活動

下記の6テーマの研究会を実施し、研究会での成果を基に、平成22年度の競争的資金制度に応募および平成23年度の競争的資金制度に応募する予定である。

- a. イノベーション推進研究会A「産業利用に向けた液中常温プラズマ反応場開発」研究会を4回実施し、平成22年度の経済産業省の競争的資金制度に応募した。
- b. イノベーション推進研究会B「健康リスク回避を目指した新規リピドーム精密解析法の開発と応用」

研究会を3回実施し、募集中の（独）科学技術振興機構（JST）の競争的資金制度2件に応募準備中である。

c. イノベーション推進研究会D「広帯域電磁波を用いた木質バイオマス非破壊計測技術の開発」

研究会を4回実施し、募集中の（独）科学技術振興機構（JST）の競争的資金制度に応募準備中である。

d. イノベーション推進研究会E「リサイクル型大粒径ポーラスコンクリートの海洋分野への展開」

研究会を4回実施し、平成23年度の国土交通省の競争的資金制度に応募した。

又、募集中の（独）科学技術振興機構（JST）の競争的資金制度に応募準備中である。

e. イノベーション推進研究会F「溶媒抽出を用いた廃潤滑油再生処理法の開発」

研究会を5回実施し、募集中の（独）科学技術振興機構（JST）の競争的資金制度に応募準備中である。

f. イノベーション推進研究会G「球状シリカ製造装置バーナーの開発」

研究会を3回実施し、平成22年度の経済産業省の競争的資金制度に応募した。



研究会 A



研究会 B



研究会 D



研究会 E



研究会 F



研究会 G

## 2 予想される事業実施効果

### ア. 産学官連携共同研究形成プロモーターによる企業ニーズ発掘活動

重点活動としているプロモーター活動をよりきめ細かいものとし、従来以上にシーズ・ニーズの情報収集につとめ、産学官連携のプロジェクトの立上げに努力した。

本年度は特に積極的に企業ニーズの把握に努め、産学官連携において、シーズとのマッチングを有効的に結びつけることができるよう活動を行った。また、企業ニーズを中心に大学・研究機関等にフィードバックすることにより、より早く市場に繋がる共同研究開発形成を目指し、プロモーター発掘型研究会の立上げや提案公募型研究開発事業への応募などに結びつけた。

### イ. イノベーション推進研究会活動

6件のイノベーション推進研究会は、各々の研究会実施により事業化にむけた共同研究での開発課題が明確となった。今後は、各府省等が公募する共同研究開発事業での実用化技術開発に進展することにより、先端材料、ライフサイエンス、環境、社会基盤、エネルギー、機械等今後期待される分野へのイノベーションの創出が期待できる。ここ数年のうちに研究会に参画した中小企業において実用化が実現すれば、新事業・新産業が創出され、地域の産業振興に大きく寄与するものと考えられる。

## 3 本事業により作成した印刷物等

該当なし

## 4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 財団法人中部科学技術センター(チュウブカガクギジュツセンター)

住所： 〒460-0011

愛知県名古屋市中区大須一丁目35番18号 一光大須ビル7F

代表者： 会長 野嶋 孝(ノジマ タカシ)

担当部署： 科学技術普及部(カガクギジュツフキュウブ)

担当者名： 平澤 進(ヒラサワ ススム)

電話番号： 052-231-6723

F A X : 052-204-1469

E-mail : [s.hirasawa@cstc.or.jp](mailto:s.hirasawa@cstc.or.jp)

URL : <http://www.cstc.or.jp/>